陸軍大將 荒木貞夫氏述

時局に對する所感

207
特246
994

福岡縣國防會

第六輯　昭和十年五月

3
9

0003236000

0003236-000

特２４６－９９４

時局に対する所感

荒木貞夫・述

福岡県国防会

昭和１０

ABA

特246
994

本會要綱

目的

- 愛國尙武ノ精神ヲ振作スルコト
- 國防ノ本義ヲ徹底セシムルコト
- 鄉土防衛ニ關スル研究施設ヲ爲スコト
- 兵器ヲ獻納スルコト
- 一朝有事ノ際ハ國民國防ノ實ヲ具現スルコト

會員

普通會員	一般本縣在住者
贊助會員	本會ノ趣旨ニ贊シ金拾圓以上ヲ寄附シタル人
篤志會員	本會ノ趣旨ニ贊シ金壹百圓以上ヲ寄附シタル人
有功會員	本會ノ趣旨ニ贊シ金壹千圓以上ヲ寄附シタル人
特別有功會員	本會ノ趣旨ニ贊シ金壹萬圓以上ヲ寄附シタル人
名譽會員	特ニ本會ニ功勞アリタル者ニシテ會長ノ推薦シタル人

事業

- 國防思想ノ普及徹底ニ關スル事項
- 國家總動員ニ關スル研究
- 鄉土防衛ノ研究並ニ實施
- 兵器ノ獻納
- 戰時事變殉職者等ノ遺家族救護事業ニ對スル後援協力
- 其他本會設立ノ趣旨ヲ達成上有効適切ナル事業

會長

福岡縣知事

送金方法

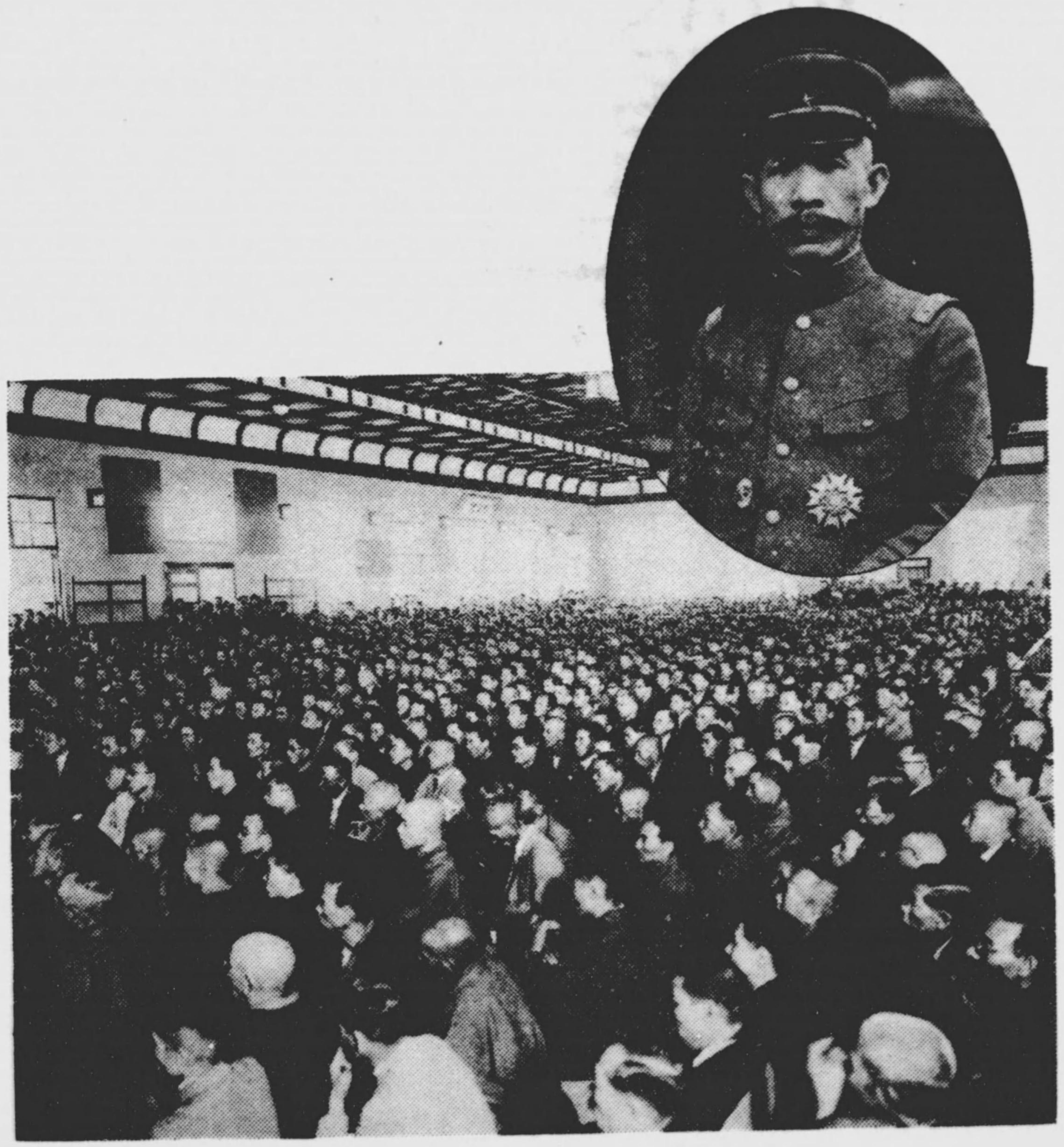
地方委員長(市町村長)ニ申出デラレタシ
本會ニ直接送金ノ場合ハ振替貯金口座福岡一八二三〇番ニ拂込マレタシ

事務所

福岡縣廳社寺兵事課內
福岡縣國防會
電話福岡五二一五番

皇謨昭々

貞夫謹識



講師と會場に於ける聽講者

はしがき

頃日　新聞雜誌などの讀物　人の會話……等々に最も多く見聞する字句は非常時なる言葉である。

非常時とは要するに　現下内外の世局は皇國にとり極めて重大である　と言ふ意に外ならぬ　而して

斯の非常重大なる世局の眞相は如何　而して又

此の期に當り同胞は如何に努力すべきか

昨年五月我が無敵海軍の巨人加藤寛治大將を縣公會堂にお迎へして其の高邁なる識見を靜聽した本會は　超ゑて十月一日には前の陸軍大臣荒木貞夫大將の　時局に對する所感を傾聽した。

時は恰も第十二師團の計畫に基づき本會員……全縣民……總動員の下に行はれたる關門北九州防空演習の第一夜　將に假想敵機の襲來……燈下管制に移らむとし軍民共に緊張の際

所は國粹武術　日本精神修練の道場たる本縣武德殿の大廣間三千に餘る聽衆に對する大將の熱辯は實に三時間半にも及むだ。

本書は　斯の大將獅子吼の速記である。之を繙けば言々皆是れ至誠の結晶　憂國の大文字である。

玆に　國民の自奮興起の資料として普く之を會員に頒つ、希くば之を精讀頑味せられたい。

お斷り

本稿は速に印刷する企劃の下に當時講師の校閲を仰いだけれども日夜繁劇の爲漸く先日校正濟となつたので配付も豫定より著しく遲延した。

此の點惡しからず諸士の諒察を乞ふ。

昭和十年五月

時局に對する所感

軍事參議官
陸軍大將　荒木貞夫

今回九州に於ける軍事始め諸般の情勢を拜見し、尙此の他二三の要務もありましたので、久し振りに御當地をお訪ね致した次第であります、私と致しましては御當縣並に御當市とは公私の關係に於て深き緣故を有つて居るのであります、又御當市をお訪ねした事も一、二度ではなかつたのでありまするが、最近は此の前の防空演習の時にお訪ねを致し、今回も亦恰も此防空演習が擧國一體の有樣で行はれ御當市でも御施行になつて居る此時にお訪ねを致します事になり、今日は玆に國防會のお催しに依り、一二の時局に關する所懷を申述べる事を得ることは此上もなき光榮と致して居る次第であります。

元來私共が身を軍籍に置きまして斯樣な演壇に立つてお話申上げることは本懷とするものでないのでありります、寧ろ不言にして實行すべき事が我國民性の特徵でもあり特に軍人と致しては左樣にあるべきであつて、斯樣な處に立ちます事すら實は慚愧に思つて居る次第であります、唯、今日の時勢に於て、擧國一體となつて御奉公致しまするが爲め、お互に色々な考へ方、行き方では、折角の九千万同胞が上

至上　陛下の御下に力を鍛せて行く上に就て頗る遺憾な點を感じますので忌憚なく私の考へを申上げて、若し其の間御意見の相違かありましたならば喜んで何時たりともお伺ひを致し、若し又誤りがありましたならば其れを是正して、倶に少くとも大きな方針だけは一體になりまして此時局を突破し、否此の時局の如何にあるに拘はらず、平和の穩かな時に於きましても吾々の使命を果すべきであると斯う考へまして、此等の點を御參考に申上げたいと思ふのであります、どうぞ色々な事を勝手に申上げるかも知れないのでありますから、其の點は御諒承願ひまして、其の中より皆樣の御實行の上に關して御參考となるべき點がありましたならば洵に仕合せと存ずる次第であります、さう云ふ意味に於きまして少くとも御得心が出來、御相談が出來ますならば倶に起つて今後其れを實行しやう、倶にやつて行かうと云ふ事でどうぞお聽きを願ひたいと思ひます。

御當市に參りまして直ちに感じました事は、今や我國が眼にも見へ又は眼に見へぬ多くの內外の重要な難關に遭遇をして居りますことは、曾ての元寇の折以上であらうと思ふのであります、彼の日本の上下を震駭致しました元の襲來、蒙古の侵略に際しましては御當地は其の衝に當られて、今尙其の遺跡も殘りて、其の當時が偲ばれまするが、吾々の決心如何に依つては當時世界を震憾せしめました元の大軍すら恐るゝに足らざる事を明かに感ずるのであります、私は本日宮崎神宮に參拜致しましたが、巍然として(敵國降伏)の御神額は樓門に輝いて居ります、此の御神額の下に立つて私が切に感じました事は、吾々が搖ぎなき非常な自信さへ持つたならば、如何なる事が此時局に湧いて參りましようとも、內外共に必ず之を降伏し得るのであると言ふ事でありました。元寇當時皇室に於かせられては國家の安危を一身にお擔ひ遊ばされました、其の大御心の程を具に拜察致しまして、其の有難き皇室の御思召は今も昔も依然として渝るところなく、而して千古を通じて一貫した我が皇室の大御心を體して吾々が協力一致して宏猷扶翼の途に進みましたならば、如何なる難事が湧いて參りませうとも必らず克服し得ることは明かであると思ふのであります、此事を一つ御記憶願ひたいのであります。

總て事實は何よりもの雄辯であります遠き昔から我が國體に示現せられました處の而して我が歷史に殘されました處の諸々の事實は私共が永く則つて龜鑑とし其れに依つて私共が心を奮ひ力を盡すべき絕對の資材と考へまするが御當地の方々は私が玆に多くの言葉を費すよりは蒙古襲來の時に皆さんの御先祖である九州武士が君國の爲めに血戰奮鬪して國威を輝した所の而して又菊地武時公が孤忠を貫いた處の多々良濱邊の彼の一石一木に當年を回顧せられましてそうして今日の時局をお考へ下さることが寧ろ

最も時局に處する捷徑で、兎に角時局は誠に重大であります。國民の千死一番して必ず突破せねばならぬ秋でありますが、顧みまして此時局に立至る迄の我國の情勢を考へますと、日本自身として誠に遺憾の點があつたと云ふことを考へさせられるのであります。先づ其の點を申上げ度いのであります。

吾々の最近に於ける得意時代は、形の上に於きましては歐洲大戰中であつたのでありませう、世界を擧げて歐洲戰場に參加し殆んど他を顧る暇なき闘爭を續けて居る間に我國は何を致して居つたか、申迄もなく當時の久留米師團が起つて青島を攻略しました、海軍は遠く地中海方面までも出動して活躍しましたが大體に於て大なる犧牲を拂ふ事なくして得たものは大きなる富であります。今迄經濟的に財政的に非常に苦んで居つた我國は、此歐洲大戰の最中に、私共から申しますならば此時機を利用して我國の世界的進出の確固不拔の方針と行動に出でたならばと誠に殘念に思ひまするが其は兎に角として、形の上に於ては多くの富を得て仕合を致したのであります併し之と同時に一方に於ては多くの禍を今日まで貽したのであります、日本は此の得意時代に於て、二十數億の正貨を集め世界で金持は亞米利加と日本だと謂はれて居つたのであります、恐らく國民の全部は今迄握つた事のない金を澤山集めて、之で日本は安全だ、之で世界の雄邦となつて立ち得ると、斯う考へて居つたのでありませう、然し乍ら考へて

見まするると吾々日本は當時聯合國の一員として起つて居つたのであつて、其の時の聯合國の多くが戰爭の爲めに非常に苦しみ、非常な艱苦を嘗めて居つたのは全く想像に餘る狀態であつたのであります、

此中には當時歐洲に駐在せられて居つた方も多々在られるであらうと思ひますが、聯合國の孰れの國にありましても食料品や必要品がすつかり缺乏して仕舞つて紙幣はドン／＼と濫發されるが買ふべき物資がありません、御承知のやうに露西亞の紙幣の如きは殆んど其の價値を失つてしまつて一足の靴を買ふにも手に握れない位の札束を持つて行かなければならぬ有樣でありました。斯樣な狀態でありますので仲々砂糖も手に這入らない、靴下も手に這入らない。石鹼も手に這入ないと言ふ風に當時の聯合國民と云ふものは非常な苦酸を嘗めて居つたのであります、當時は斯樣なカフス、カラーの如く糊の着く物は例へ洗濯は出來てもつける糊自體が既に缺乏して居つた、其處でソフトが流行り出したのも其の當時からの事であります、其れから茶を飲むにも砂糖は勿論無い、砂糖のない紅茶想像が出來ませう、一片のパンを得る事も仲々困難で切符を持つて糧食販賣所に行つてやつと手に入る有樣です。

石炭も段々缺乏して參りました結果電燈を點けることも自由に出來ない、時間を限つて八時から十時迄つけるとか或は塲合に依つては、一つの都市を幾つにも分けて時間を限つて點燈したのであります、

六時から八時迄が西區、八時から十時迄が東區、十時から十二時迄が北區と云ふやうに分けて、十二時にはチャンと燈りを消して仕舞ふ、其處で日が暮れて東區に電氣が點くと出來得る限り東區を訪問する自分の方に燈りが點くと歸つて來て仕事をする、或は朝は早く起きて少しでも太陽を利用してあらん限り働かなければならぬ、斯う云ふ困難にも遭遇して居る、面白い事には當時砂糖を網の中に入れて腰に下げて歩けば何んな事でも出來ない事はないと謂はれてをつた、何か物事を頼むと言ふ樣な場合に砂糖を持つて網から見へるやうにして歩けば黍團子ではないがゾロ／＼人が蹤いて來るとまで云はれたる有樣であつた。菓子やキャラメルなど我手に入れるのも容易でない。さう云ふ例を申上げれば限りはないのでありますが、聯合國側の困難苦痛は一通りでない其の上佛蘭西、露西亞でも敵の爲めに自分の國內を蹂躙せられ、ルーマニヤの如きは自分の領土の五分の四迄は殆んど失つて僅かに片田舍の都の『ヤッシ』といふ所に皇居を遷して辛うじて餘喘を保つた位であり伊太利と雖も屢々國內を荒されたのであります、唯獨逸だけが自國內に於ける戰禍を見なかつたのでありますが其苦は又格別でありました、今日の防空演習を行りますやうな空襲を屢々受けて、國民は其の空襲に對して多くの犧牲を拂ひ試練を受けたのであります、斯う云ふやうに吾々の聯合國が非常な辛酸を嘗めて苦しんで居る時に、而も多くの戰鬪員を第一線に出して多くの金を費つてゐる間に日本は何をして居たか、第三者ではない立派な聯合國の一員であるところの日本は青島を攻略して以來只今申上げました通り非常に多くの富を得て世界第二の金持になつたと迄謂はれたのであります。

然らば斯の樣に莫大な富を得た當時の日本人の生活狀態は何うであつたか、と申しますと私は歐洲に駐在して內地に居りませなかつた關係上詳しい狀況は知らないのでありますが、其の當時聞くところに依りますと又新聞紙などの傳ふるところに依りますと、全く成金氣分に有頂天になつて一方に於てドン／＼金を儲けて來る、一方に於ては其れが湯水の如く浪費される、湯水の如く費はれるもよい、其の費ひ方が結構であれば全部費つて仕舞つても構はんと思ひますが、其の費ひ方が餘りに常識を逸して居る例へば宴會をするにも、何うも一人前三十圓、五十圓では平凡だ、百圓、二百圓、三百圓でも好いから桁外れの御馳走をと言ふ註文をする、料理屋の方ではさうした料理は容易には出來難ねるが色々工夫して例へば鯛の脊中の鰭の處の最上肉を少し宛採つて蒲鉾に作つたりして全く無軌道の料理で注文に應ずる。遂にはダイヤモンドを一つ宛鯛の眼に入れて御馳走をしたと言ふ話もある事、の眞僞は存じませぬがそう言ふ風に有頂天になつて理性を失ひ無反省になつて馬鹿々々しい一時の慾望と滿足に陶醉して居つ

たと言ふ事を承つて居ります必ずしも無かつた事ではあるまいと思ふのであります。

斯ふした話を遠く歐洲に在つて親しく戰爭にも從軍し審に各國民の悲慘な生活を見聞した私共は世界に對して甚だ日本人として申譯がないやうな氣がして甚だ遺憾に思ふて居つたのであります、第一に列國がさういふ風に困つてゐる時に何故日本人はもつと心を寛くしもつと遠大な希望を持つてそういふ馬鹿々々しい無鐵砲な濫費をする代りに之を苦しむ者の爲に分けて遣る位の雅量と同情とを持つて呉れなかつたろうかと誠に殘念に思つたのであります。個人の場合にしても自分の友達と思ふ者が自分だけ贅澤をして他を顧みなかつたら賴み甲斐がないと誰れしも思ふのは當然であります。恐らく當時の歐洲人の心の奧底を解剖して見たならば日本に對する嫉妬から出た輕い反感とでも申しませうかそう言ふ氣持ちがあつたんではないかと思はれるのであります。唯だ戰爭に夢中になつても口に色にも出さなかつたんではないかと思はれるのであります。而して私が最も遺憾に思ひました事は是丈の富を得るに當つて日本人が一向に商業道德を重んじなかつたと言ふ點であります。吾々が當時歐洲戰場に於て必需品を需めました時に、例へば鉛筆の如き、シヤツの如き、ナイフの如き手廻りの物を需めます時に多くは日本品でありました。然るに使つて見ますと鉛筆の如きは色鉛筆をよく使ふのでありますが、品物の上等で

ないのは未だ日本の工業が幼稚であるからと甘んじてもよいのでありますが、鉛筆を削つて行くに隨つて蕊が無くなつてしまふ、鉛筆の兩端に蕊があつて眞中が拔いてある、中拔の鉛筆を賣つて居るのであります、持つて行つて苦情を言ふとメード、イン、ジヤパンと書いてある、貴下の國から來たのであると言ふ。一體鉛筆は木を買ふのでなく蕊が大切であります、蕊だけであるならば吾々は甘んずるのでありますけれども蕊の中拔の鉛筆を賣つて居る、ナイフなどもバネが附いて居らない、ピンと出して後ろに廻はして使ふと言ふ頗る不便なナイフである、メリヤスのシヤツを見ますとミシンがゾンザイにかけてあつて糸を儉約して居る、ガタ〳〵と大きな目で縫つて其の上止めがしてないのであります、手も省けばミシン糸も省いて居るのであります、甚しいのは釦を糊で着けたのがある、嘘のやうな話ですがそれは事實であります、後になつて聽いて見ると元來廉く注文を受けたのであるから釦と糸は其方でもつて貰ひたいといふやうな事で糊で貼り付けたのだといふ話であります、さう云ふ不當利得をしてゐるのでありますから、鯛の眼玉にダイヤモンド一つ入れる位ひの事は何でもない譯です併しさう云ふ不德義をしたといふことがどんなに日本の國家的信用を傷けたでありませうか、斯樣な商品を出すとは實に怪しからん、不德義極る國であると謂はれても辯解の言葉はなからうと思ひます、私は當時の品物を二三

見本に持つて歸つて居りましたが、こう言ふ事は日本の恥を暴らすやうで餘り外に向つて言ひたくないのでありますけれども事實左樣であるのを悲みます。

併し譬にも有ります通り汝に出でたるものは汝に還る、日本人が國際商業道德を無視してまで集めた富の結果は甚だ好ましくない影響を齎したのであります。即ち人心は墮落しました生活狀態は不相應に向上しました。非常に華美、軟弱に流れました、律義と堅實とを失ひました、そうして泰西の種々の思想が人心の弛緩につけ込んで日本人は自分計りでなく日本の姿すらも見失ひかけました誠に恐るべき事です。加ふるに大正八九年の經濟界の反動を受けて折角歐洲戰爭中に儲けた利益を吐き出した計りでなく爾來十餘年間隨分日本は不景氣に惱んだのであります。自業自得だと言へば誠に簡單ではありまするが折角世界的になつた向上日本の首途としては悲しむべき失策だと思ふので御座います。何故日本人はもつと着眼點を高くし氣宇を太きくして將來の事を考へて吳れなかつたろうと殘念に思はれて仕方がありません。是と言ふのも萬邦無比の日本と言ふ道の上に立つて爲すべき事はなし、爲すべからざる事は爲さぬと言ふ日本の訓を反省する事を忘れた結果ではないでありませうか、當時私は斯う云ふ意見を申述べた事があるのであります、誰れでも商賣をすることになれば廣告料と云ふものが要るのである、大きな商賣程廣告料が餘計要るのである、凡そ何の位の金をお費ひになるのかよく存じませぬが、毎日の新聞に表はれて居ります廣告を覽ますと、到底吾々が一生の俸給を出しても出來ないと思ふやうな紙面一杯埋めてゐる廣告が出て居ります、隨分高い廣告料をお出しになつたと思はれます。其れを見ましても商賣上廣告の必要なことが充分察せられます。さう致しますれば歐洲戰當時さう云ふ大きな廣告をする積りで詰らぬ事に湯水の如く浪費する費用を轉じて歐羅巴の困つてゐる國々に對する同情の爲めに之を散ずるが宜しい、歐洲に日本が兵隊を出す事が出來ないならばせめて窮民を賑はすが宜しい。其れは今日行はれて居りますやうな慰問袋を向ふに出したらよからうと私は申したのであります、慰問袋を作つて佛蘭西或は英吉利、亞米利加、ベルギーと云ふやうに聯合國の困難な人へ日本から揃つて一人一個宛としても一家五人居れば數千万の大きな贈物が出來るのであります、例へば福岡市なら博多織の袋、或は博多織の胴卷、何でも宜しい、或は人形を贈つても宜いし叩いても毀はれない博多人形を贈る、兎に角さういふ物を容れて福岡市何某より露西亞、英吉利、佛蘭西其の他の聯合國の將兵へ慰問品として贈る、戰場に到着すると戰場で戰つてゐる將兵が悉く其れを貰ひまして、英吉利と言はず佛蘭西と言はず、ベルギーと言はず戰場に贈られた慰問袋を受けた彼等將士は如何に感謝の念を表するかは皆さんが

滿洲の日本の將兵から受取られるところの感謝狀に依つてお判りになることゝ思ひます、其の慰問袋を受取つた者は、之は何處からだと言へば日本の福岡市の何某である、福岡の街と云ふのは何處に在るか九州に在る、九州には偉い人があつたものだといふので中を開けて見ると博多織の袋が這入つて居る珍しい立派な物である、シヤボン等を容れて持つて歩くには勿體なくなつて使へはしない、大事に背嚢の中に仕舞つて置いて若し凱旋でもすれば土産に持つて歸らう、さうして戰場から片田舍に歸りまして、之は戰場で日本の親友から貰つた物である、戰場で使つて來たけれども非常に丈夫である、此袋の繡ひは實に立派だ、之が筥崎八幡宮だなど言ふ、すると皆んなが其れを掌に取つて覽る、そうして日本の品物に限るといふことになる、斯う云ふ袋は巴里にも出來ないと云ふことになると巴里から博多織の袋の注文が來る、さう云ふことで一個の慰問袋がきつかけとなつて日本商品が販路を擴張して行くそれで私は、金額はいくらでもよろしい總て廣告料と思つて彼等の爲めに盡す事は結局日本の利益ぢやないかと云ふ意見を申して見たのでありますけれ共、そんな事は單に形式であると云ふやうな事で何人も顧みなかつたのです。私の此の考に對しては種々と異論もありましたが、矢張り今にして見れば日本が廣い見地に立つて將來を達觀して恩義を彼等に與へて居つたならば如何に國際信義に乏しいと言はれる歐米諸國と雖も現在よりは遙に好く日本を理解して呉れたであろう。誠に殘念な事です而して日本人が、何故さう云ふ風に行はなかつたか、吾々は其の根底に大きな反省をしなければならぬ問題が有るのではないかと思ふのであります。

斯くて歐洲大戰終了と共に歐米の對日ブロツクは暗々裡に結成せられまして日本を虐めやう一つ日本を叩いてやろうと言ふ空氣が期せずして濃厚となつて其の最初の現れが所謂ワシントン會議であります言ふまでもなく此の會議は名は軍縮會議でありますけれども實は日本虐めの寄合會議であつたのです海軍の五、五、三の比率は今猶我が國防の癌となり暗澹として太平洋上に風雲を孕んで居ます、山東鐵道を、而して青島を支那に還しました。九ケ國條約が詰ばれました。此等が原因となつて其の後日本は非常なる難局に遭遇したのです併し冷靜に顧れば誰れも恨みることはないのであつて、昔から申しますやうに、人は自ら己を侮つて而して後に人之を侮ると申して居ります。歐洲大戰中に濡れ手で粟の富を攫んで有頂天になつて日本の本當の姿を見失つて他を顧みるの暇もなく自らを侮つて將來の大計を忘れた結果斯う言ふ境遇に立ち至りましたものであつて、天を怨みる事も人を咎めることも實は出來ない筈です。返す返すも私は其の時に日本人本來の道筋を考へて之を實行して居つたならば、必ず其處に坦々と

して大道の通ずる方法が自然に開けて來て居つたであらうと思ふのであります。斯様にして日本は政治的にも經濟的にも國際的離關に陷つたのであります。果然此の機會を最も巧に利用したのが隣邦の中華民國であります。彼等はベルサイユ會議當時から歐米の對日ブロックを巧に操りまして巧妙なる宣傳外交に依りまして露骨に排日を企て、進んで抗日となり日本の國際的環境が段々不利になるにつれて遂に日本與し易し、日本怖るゝに足らずと云ふ觀念から侮日即ち凡ゆる場合に於て日本を侮辱するの非を敢てして平然たるの有様に立ち至つたのであります。之は吾々として忍び難い事でありますが併し何等の國家的統制も國民的結合も無い所の支那から侮日の態度に出でらるゝと言ふのは憤激すると同時に吾々としても冷靜に顧みる處がなければならぬ事であると思ふのであります、どうせ男が一度屋外に出れば七人の敵はありませう、孔夫子にも敵がある、キリストにも敵がある決して敵は怖れは致しませぬが、其の敵より憎まれる迄は未だよい、只だ侮られるに至つては國力の强弱は別として日本としても大いに反省しなければならぬのであります。其は支那計りではありませぬ、かの亞米利加におきましてもカリフォルニヤ洲に於て日本人の様な有色人種は白人よりも劣れる人種であると云ふやうな觀念の下に遂に日本人はカリフォルニヤから移民制限を受け、排斥せられるやうな狀態になつたのであります。

大正十二年は想ひ起しても大震火災の爲めに關東地方があれ程迄に慘禍を蒙つて、恐らく日本は再び起つ事が出來ないのではないかと世界的に考へられた、其の時に恰も時を同じふしてカリフォルニヤ移民問題が起つたのである。當時吾々がお互に熱血を湧かしたのも決して偶然ではありませぬ、吾々は固より敢へて他國に行つてお世話を受けぬでもよいのであります、併し有色人種は劣等だ其れ故に其の移民を制限すべしと云ふ理由では吾々が自ら起つて世界に日本の國の、本當の日本の道を履ましめ世界を平和に導くべき天業恢弘の上に於て一歩も退かじとの信念を以て居る日本人として、其れは恕す事が出來ないと考へて居たのであります。併し乍ら此問題も雙方の面目を立てたと申しますが、國際的問題に渉りますから其れ以上は申上げませぬが、兎に角雙方の面目を立てたと云ふやうな事で納つたのである併し此問題は根底から解決して置かなければ日本人は永遠に白人種に對する劣等民族なりと云ふことを承認した形になる、其の點に就て吾々は其れに甘んずることは出來ないのであつて、孰れ解決はされるでありませうし亞米利加と致しましても勿論之を解決して呉れねばならぬと思ふのであります。而して此問題と前後して起つて來たのが海軍々縮會議、即ちワシトン條約問題であります。日米關係と云ふものが何となく暗雲低迷の形にあります、ことはワシントン會議に端を發しロンドン條約に依つて問題

が更に大きくなつたのであります。當時世界を擧げて戰後の立直しをする爲めに無駄な軍備擴張を止めて寧ろ軍備を縮少しやうと言ふのがワシントン會議であります、そうして此の會議で日本海軍は英米に對し六割と云ふ銘を打たれたのであります。なるほど當時の日本海軍は形の上に於て主力艦は丁度六割位の噸數であつたでせう故に或は六割でも好かつたでせうが併し妙なもので六割と謂はれると萬事根性までが亞米利加に對して六割になり勝ちである。私は海國日本、海の日本が假りにも冗談にも一時なりともお前は六割たるべしと云ふ事で甘んずると云ふことは軈て將來に海の日本として立つ上に於て其れが自然に日本人の卑屈心を來たすやうな惧れのある事を考へます時に此問題は是非共解決しなければならぬと云ふことになつて來るのであります。而も當時九ヶ國條約が出來まして遂に青島は支那に返却致しました、返すべきものは返して宜いが其の結果は何うであるか、困つたものは青島に於ける我居留民である、益々侮られて其の後山東に於て幾多の事變を起して多くの犧牲を拂つて居るではないか。ロンドン條約に付ては只今豫備會議開催中で茲には申上げませぬが、前述の如くワシントン會議後支那の日本に對する態度が特に非禮を極め侮日的態度は日を逐ふて甚しく遂には滿洲から日本人は出て行けとばかりの暴慢無禮となつて事毎に日本を眼下に見下したのであります。恰も當時糧食問題と人口問題の解決如何と言ふ事は日本に於ける政治經濟上の重大問題でありまして人口糧食問題の行詰りで日本は何うなるか判らないと云ふやうな事を謂はれた位であります。每年人口が七、八十萬から百萬近くまで增加し此人口增加に伴ふて糧食は不足を告げ日本は遂には住むに土地無く、食ふに食無く餓死するより他仕方がなくなるだらうと、其處で何とかして此の人口糧食問題を解決しなければならぬ其には產業獎勵と移民と產兒制限との方法に依らねばならぬと言ふ事になつて其の當時產兒制限論が相當に賑であつた。一体子供を無暗に殖すから問題になる、殖さないやうにしたらよいではないかと云ふ事で御叮嚀にもサンガー夫人の出張となつた、此サンガー夫人に就ては當時可成り多く議論せられたのでありますが、人口糧食問題から遂に產兒制限にまで發展して當時の世論を賑はしたのであります、併し幸にして產兒制限には人道的に思想的に民族的に强硬なる反對氣運が漲りまして苟くも一國の民族が天が與へ親が與ふるところの至寶を制限して生きて行く喰ふて行く、斯る方法で糧食問題と人口問題を解決せむとするが如きは、一体日本が如何なる使命を有つて居るかといふことを考へます時に、絕對に排斥すべき思想であります。其れから移民と產業の問題でありますが當時日本の有力な議論として移民問題では日本は八方塞りだから唯だ亞細亞大陸に向つて人口の捌け口を見出さなければならぬ。同時に產業問題としては支

那は原料國である支那は日本の市場だ土地も廣いから支那を手放す譯にゆかぬと云ふやうな考へが其の當時可成り强かつたのであります。其れが昭和二年、三年頃の情勢で支那の考としては日本の國際的環境は次第に悪いし右の人口食糧問題の裏を搔いて支那が原料を與へなければ日本の商工業は行詰り支那が購買せざれば日本の商工業は衰滅すると考へて支那人は日貨排斥さへすれば日本を制する易々たりとして直に勵行し排日國民教育に依つて日本人に對する仇敵心を養成し外交上には直に暗躍して日本を侮り遂には滿洲から日本人を漸次驅逐しなければ止まぬ樣な危急な狀態になつたのであります。以上が歐洲大戰以後此滿洲事件の起る迄の日本の内外に於ける情勢の大略ではないかと考ふるので御座います。

斯くて支那に對する日本の堪忍袋が爆發しまして遂に滿洲事變の勃發となり玆に日本は本來の日本に立還つて來て世界に向つて我が皇道を宣布せんとするのが今日の非常時局であります。幸なる事には糧食問題であれ程騷いだ日本人の最重要食料品たる米も今日では出來過ぎて困る位で一昨年當りから米價が安いので農村が悲鳴を擧げて居る程です。何たる皮肉でせう、十年許り前には米が無いと云つて騷いで居つたものが、玆二、三年は米が出來過ぎたと云つて悲觀して居る、それで今日に於ては米が有り餘つて困るからなるべく制限して作らう、そうして米の値をなるべく高くして農家を救ふと云ふ。なるほ

ど農家の爲には高くなつた方が宜いでせう、多く作つて値が高ければ尙宜いでせう、併し米が出來過ぎたと云つて其れを減さうとしたり、尠いからと言つて外國に物乞ひをする、勿論經濟上の需給調節ではありませうが餘りに目先に捉はれた偏屈な小乘的根性は兎に角日本として大いに反省をしなければならぬと思ふ。斯う云ふ根性がある以上は何んな事をしても到底世界に向つて神洲日本を見よといふことは申すことは出來ないのではないかと思ふのであります。何故肚を一つ決めて人口食糧問題の根本に向つて日本國家の世界的使命と言ふ大道に立つてもつと〳〵高い見地から之を解決しやうとしないのか。此の肚さへ締めてかゝれば例へ歐米人が人口糧食問題でさぞお困りでせうと言つた時に、なるほど困ります併し屹度見事に解決して若し貴國がお困りの時には日本から差上げる自信を有つて努力して居ります貴下は日本人を而して東洋を眼下に觀て御勝手な事を爲さるのを止めて下さい、此の事は是非考へて下さいと吾々が擧國一致になつて斷乎たる決意を示しそうして從來歐米人が東洋人、殊に日本人に對して有色人種なるが故に劣等民族である、有色人種なるが故に特別な取扱をすると云つて吾々東洋の民族に對し彼等白色人種が爲した誤れる行爲に對して一矢を報い强く其の反省を促したならば彼等は顏色なく自己の非を悔ひ日本人は偉いと感心するに違ひありませぬ。何事も何れの塲合も自分の肚が決らないで

眼前の物慾利害に眼が眩むと共の結果は必ず芳しくないと謂はなければなりませぬ。序に米の問題でありますが、私が最も遺憾に思ひますのは、昨年は米が非常に剰つた、之では農村が困るといつて非常な騷ぎであつた、然るに今年は御承知のやうに東北地方は非常な寒さで農作物が非常に不作であると言はれ、北陸地方は水害、九州地方は旱魃の爲めに全國を通じて米が不作である減收であるとの見込が確かになつた時に何と言つた『之で結構、漸く今年は喧しい問題に息がつける』と云ふ聲を識者の間から聞くに至つた事は洵に寒心に堪へなかつたのであります。凶作であるが故に今年は息がつけると云ふ事は一体何たる事でありませう、なるほど凶作なれば米の値が騰りませう、私は米の値の騰り下りの問題だけが直に農村問題を解決すると考へた其の根底に根本的誤りがあると考へるのであります。農家は豊年滿作が良いのです、何處迄も豊年滿作でなければならぬ。天地自然の五風十雨の惠みに依つて今年も豊年滿作であれと神に祈り感謝致す所に物の化育があるのです。之が本筋で御座います。年々豊年滿作で米がウンと出來て米の値が下つて生産者も消費者も日本人全体が悉く安樂な生活を得て各自が一致して日本の大使命を果し得る樣にする之が根本的に大切であります。（拍手）斯う考へると吾々は何よりも農家に對して人知れず掌を合せて洵に御苦勞ですと衷心の御禮を申上げたい。そうして米價安の爲めに農家が立行かないならば此儘默つて居れるか、自分の着てゐる物も脫いで農家を何とかしなければならぬと云ふ氣分が起きて來て始めて其處に默つて居つても自ら農村問題も又勞働問題も社會問題も解決せられるのではないかと思はれるのである。農家は何處までも豊年滿作を天に祈る。何故かと言ふと如何に肥料を施しましても、如何に人工を加へませうとも農家の仕事は工業と異つて自然の配劑、天の惠み、五風十雨に浴さなければ農産は豊に實らぬ、其れで天に祈る今年もお蔭で豊年滿作である、それで農村擧つて豊年踊りをしやう併し米の値が安くて豊年踊りさへする事の出來無いと言ふ樣な場合のない樣にするには農村の使命を安心して果さする爲めに必要であります。即ち米は安いが吾々が御互に工夫し協力して農家の生活を安らかにする事に努める。斯樣な溫い心づかひで日本の同胞がお互に扶け合つて所を得志を得て幸福にすると言ふ事が經濟機構だとか、農村救濟機關だとか云ふ問題に沒頭する前に先づ心がくべきであらう。此の一點に心を置いて日本人本來の道の上に生死をも顧みず行くところに自ら幸福平和があるのではないかと私は思ふのであります。（拍手）

斯樣な考へが一致して始めて此時局問題と云ふものが解決出來るのであります。今年日本が凶作だと言ふ豫想を聞いて何人も憂ふる色が無いといふことはお互ひ日本人が大いに反省すべき事で、反省して

本當の日本人に立歸つて恐れ多き事乍ら　陛下の御德、陛下の御道、日本の道を更に光輝あらしめるやうに所謂宏猷をお翼け申す爲めに吾々は一層努力しなければならぬと云ふことを痛感致すのであります。

扨而話の本筋に立ち歸りまして昭和六年秋に滿洲事變が起りましたが、幸ひにも此の事變以來擧國一體となつて明治維新以來の國是として吾々國民に明瞭にお示しになつた東洋永遠の平和、之の爲めに日本は日清戰爭を起し、日露戰爭を起し、歐洲大戰に關與し其の時の宣戰の御詔勅、平和克服の御詔勅を拜しましても必らず其の中にお示しになつてゐる處の、東洋の平和其の東洋の平和は必ず日本の手に依つて確立しなければならぬと言ふ自覺を一層强めまして其の第一步として日本が奮起して滿洲事變と云ふものが起つたのであります。近年帝國議會の狀態を見ますと何故か何時も紛糾を極め勝ちである。然るに其の帝國議會に於て愈々滿洲國を承認する、聯盟を離脫するといふ時には眞に滿場一致破れん計りの拍手と熱誠とを以つて迎へたのであります。內田外相の如き老練な外交家も其の決意を示すに當つて外交家の口からは容易に出難い言葉であるが『此國を焦土となすも此所信は貫徹しなければならない』と、所謂『焦土外交』を聲明せられ、牢固たる決心を有つて議會に臨んだのであります。議會も之を迎へて滿場一致拍手を以つて滿洲國を承認し聯盟を離脫するに至つたのであります。私は其の當時の內田

外相の決意に對し老外交家たる內田伯に對し滿腔の敬意を表するのであります。伯の聲明に對しては後になつて多少の批評はありましたけれども、誰も日本帝國を焦土にするのではない、例へ焦土とするも此の決心は死するとも袖乞ひは致さぬぞ、相手が道を以つてするならば道を以つて講じませう、併し飽く迄非道を敢てするならば吾々は此處に餓死するとも辭せずと云ふ決心を有つて國際會議にぶつゝかつたのであります。

今日から考へて見ますと非常に事は易いやうに思はれますけれども、滿洲事變が始まつてから國際聯盟は全く日本の立場を無視し、世界を擧げて日本は怪しからぬ侵略國だ、條約違反だと大童になつて經濟封鎖もし難ねまじき狀態で幾度か國際會議を開き、理事會に於ては十三對一、總會に於ては四十三對一を以つて日本は遂に孤立の狀態に置かれ國際聯盟を離脫したのである。當時の日本は其れこそ有史以來の難關に遭遇致して居つたのであるが幸ひに　陛下の御稜威の下に國民が悉く一體となつて此御稜威を何處迄も奉戴し、之を仰いで皇室の御道をお翼けするといふ心持即ち日本精神と申しますか、日本人の本當の心に立還つて擧國一體となつて正しき道なりと信ずる處に向つて堂々と起ちました其の力に據つて初めて其の難關を切り拔けたのであります。決して生容易しい事ではなかつたと思ひます。此の滿洲

事變以來の狀態を觀ましても　陛下の御稜威と皇室の御德と皇室の踐ませ給ふ處の御道と其れに對する國民の絕對的信奉とが莫くんば到底滿洲事變の結末は今日の如くに到らざりしことを吾々は考へなければならぬのであります。

換言すれば吾々國民が一體となつて上　陛下の御稜威を仰いで世界無比の偉大なる力となつて難關を突破したのであります。此點に就ては常に我が國體の大なる御稜威に依つて生ずるところの神明の加護に對して深く感謝しなければならぬと思ふのであります。（拍手）かの蒙古襲來の時に起つた筑海の颶風と言ふか、伊勢の神風と申しますか、學者は唯其れを偶然の事と考へられるでありませうが、斯樣なる神明の加護は自ら誠の心に據り　陛下の御稜威を仰いだ結果自然に顯はれた神明の加護であると私は信じて居るのであります。（拍手）右の樣に日本が世界を相手として戰つて扶けた滿洲國は爾來幸にして順調に發達して參りまして一時は二十萬と稱せられた匪賊も今では四、五萬もあるまいと謂はれて居ります。小さな國ではありますけれども既にサルバドル國は滿洲國を承認して居ります。露西亞は北鐵讓渡問題に依つて事實上滿洲國を認めて居り、其れのみならず世界を擧げて今や滿洲國の現狀に對して驚嘆して居る有樣であります。滿洲建國以來僅か二ケ年でありますが此の僅かの間に愈々鞏固なる發達を遂げて今や滿洲帝國となり、先般は秩父宮殿下も御名代として彼の地に渡らせられ、親しく日滿兩國の親善の礎を御固めになりまして日滿兩國は日每に親善の關係を保つて滿洲は國礎益々鞏固に國運愈々隆昌に向つて進んでゐるのであります。

而して茲に一つ考へなければならぬ最も大事な點は、滿洲事變の結末が形付いてから動もすれば日本人の間に其の小康に安んずる傾きがある事である。世界を敵として國際聯盟會議で戰つて昂然として居つた當時の人心の緊張が今は餘程弛緩したではないかと實は心配せらるゝのであります。實は問題は之からです。之から時局は愈々重大であり今までは非常時局の第一步に過ぎなかつたのです、然し日本の國際的事情は幾分變りつゝあるやうで歐米の對日態度にも多少親交的氣分が窺はれるやうにも思はれます、又日本の實力も飛躍的に進展して參りました。滿洲問題の爲めに日本は經濟的に行詰るだらうなど言はれましたが行詰る所か素晴しく產業が發達致しました、そうして今や日本品は世界到る處に市場を開拓して世界から日本の商品怖るべしと謂はるゝに至りましたが今度は歐洲戰爭中の如く粗製濫造に非ずして、優秀なる品物を造りドン〳〵海外へ進出し、而も其の値が廉くして優良であるから世界の市場を獲得することは當然の歸結であります。之は無論爲替相場の關係もありませうが、實際の腕が其處まで

進んでゐるのであります。斯の如くして總べてが思の外に順調に進んで參りまして或は之で安心だと考へるやうに思はれますが、實は此時局の一轉機こそ最も心を致さなければならぬ重大事でありまして此點を私は皆樣にお諮りしたいと思ふのであります。

今日世界の大勢を觀ますと何れの國も非常に不安の情勢に漂ふて居る。日本も同樣でありますが御承知の如く幾多の平和條約は結ばれましたけれども一向に其れが平和を齎して居ると思はれません。此儘では何時まで經つても同じ處を行くのではないか恐らく不安は去りませぬ、其處に何か根底に大なる誤りがあるのではないかと云ふことを檢討する必要があると思ふ。一体吾々が今遵奉してゐると申しますか、その中に活きてゐると申しますか、現代の文化といふものは一休之で宜いのであるか、此の一世紀二世紀の間世界の總べてを風靡したのは歐羅巴文明である、悉く世界を支配してゐるものは歐羅巴文明でありますが、なるほど歐羅巴文明には長所を有つてゐる、洵に良く組織化されて居り洵に良く合理化されて居ります、洵によく能率を發揮して居りますが今迄宜いと信じて居つた此歐羅巴文明は果して世界の永遠の幸福、平和を持ち來たしたかと謂へば其處に大なる疑問を生ずるのであります。

第一に國家組織の問題に就きましても歐洲大戰後の狀態を觀ますと、今迄歐羅巴に在り來りの國家組織に對して洵に變つた組織を齎しましたのが彼の露西亜の共産主義、ソヴイエート國家であります。今迄の國家は悉く資本主義國家であつて此の資本主義國家では到底無産者に平和と幸福とを持ち來る事が出來ないと考へてレーニンがマルクスの訓へを奉じて共産主義ソヴイエート國家を造つた、そうして此の組織に於てこそは無産者に悉く幸福であると謂つて爾來茲に十何年か國を成して居ります。過去の歐羅巴文明から觀るならば既設の國家、既設の總べての國家は之に對して抗議を申込まなければならぬのであるに拘はらず之を宥して居る、宥して居る許りでなく國際聯盟に引入れて理事國にまで引張り込んで居ります。

さうかと思ふと此の共産主義の暴戾に對して蹶然として起つて共産主義を排擊し非常な荒療治を致しまして共産主義を克服して興隆して來たのが伊太利のムツソリーニであります。所謂茲にフアツショ伊太利が出來ました、之も今迄の既設國家とは其の趣を異にして居るが、ソヴイエートが好いかフアツショが好いか或は今迄のデモクラシーが好いか茲に大きな疑問を生ずるのであります。ソヴイエート國家では決して人間に永遠の幸福を齎らさうとは思はれない、亦フアツショでも必ずしも永遠の平和幸福を齎らさうとは考へられない、然らば今日まで數世紀の間歐羅巴各國に行はれて居つたところの現存の國家機構に依つて平和と幸福とが持ち來さるゝかと言ふとそれが出來ないから茲にソヴイエートやフアツ

ショが起つたのである。而して一方獨逸に於てはヒットラーがヒンデンブルグ元帥に代つて主宰しナチスと謂つて居る、之亦伊太利のフアッショでもなければ無論共產主義でもない、ナチスはナチスとしての行方を有つて隨分思切つた政策を施しユダヤ人を片つ端から放逐したり、傳ふるところに依りますと日本の商品が世界の市場に出て行くのは海外猶太人が獨逸に對する反感から日本の商品を迎へるからだと謂ふ人すらある位であります。亞米利加も今迄は御承知の様な狀態で進みましたけれども今や所謂非常な危機に遭遇致しまして、大統領は獨裁的色彩を以つて亞米利加を導かむとしてゐます。佛蘭西、英吉利も亦同樣、仔細に點檢すれば各國思ひ〳〵の行き方をして惱んで居るといふ狀態であります。

然らばフアッショの如く、ソヴイエート或はナチスの如く或は亞米利加の獨裁的色彩の如く、其の組織の變化に應じて世界の平和と幸福が齎らされたであらうか、現に思想的に社會的に極めて不安な情勢でありどうしても一大改革を行はなければ世界の平和幸福が得られないと云ふ情勢であります。去りとてフアッショやナチスやソヴイエート將た亦舊國家の組織で果して幸福が得られやうか何人も之を斷言することは出來ないやうな現狀ではありますまいか。

此處で方向を變へて一寸經濟機構方面を觀察して見ますと。金があれば萬事結構であると云ふのが吾々の通念であつた。而してお互ひに日本人は澤山金を有つてゐると云ふやうなことは餘り聞かない。日本は多年の間何うも貧乏で困ると言つてゐる、隨つて世界から貧乏國と思はれて現に滿洲事變中にも今の日本は財政的に破綻するに相違ないそれ迄默つて暴れさして置けば宜いと云ふのが當時の世界よりの日本評であつた。如何に强からうが如何に强情を張つて居らうが今に財政的に潰れるに違ひない、然るに今にも潰れると謂われたものが逆に天祐でありませう日本の產業が大に發達し世界で殆んど日本の商品に對して太刀打が出來ないやうになり財政狀態が段々好くなつて昔の樣に貧乏でない事を如實に示してゐる、因より赤字は增しましたが之れ又考へ樣で方法はあります、然るに自ら貧乏〳〵と言ふものだから人も貧乏扱ひをするのである。吾々の懷ろに千萬圓の金が有つても外から看れば有るか無いか判らない、其の金の費ひ方、最も有用な費ひ方をする事に依つて其の金の德が顯はれて來るのであります。私は始終此の事を謂つて居りますが、大いに儲けることは良い、決して始終貧乏顏をして瘦我慢をする必要はない、金は最初に費ひ方を考へて儲けるのが途ではないかと思ふのであります、さうでなければ幾ら有つても物寂しいのではないかと思ひます。私は其の點に就ては一向に强い刺戟が無い職務にありますから單に壹圓の金は壹圓と看て居るのでありますが此の壹圓の金を單に壹圓と看ないで、此の壹圓

といふものを利子とすれば幾らに當る、其の元金は何百圓である、故に此の壹圓を費ふことは何百圓の金を費ふ事に當るといふやうに考へるのは尤もである、さうならなければ國は富みは致しませぬが、併し其の費ひ方に就ては考へなければならぬと思ふ、例へば子供にしても小使を遣つて之を最も有効に速く費つて仕舞へ、何うして有効に費ふかと尋ねて見ても子供は決して回答が出來ない、今から鉛筆を買ひに行かうが、否鉛筆は此處に在る有効ではない、然らばキヤラメルを買ほふか、之も有効ではない、遂に拾錢の金を持つて戸惑ひをして遂には國防献金か水害救濟かと、それでも拾錢許りでは有効ではない、然らば何うして有効に費ほふかと子供はハタと困つて拾錢を握つたなり考へ込んでしまふ、遂には費はなくなつてしまつて拾錢では駄目だ、壹圓ならば何とか出來る、拾錢では仕様がないといふことになつて遂に壹圓になる迄之を仕舞つて置かふといふ事になつて來る、其處に初めて貯蓄と云ふことが活きて來るのではなからうかと思ふのであります。此の金の費ひ途を考へないで、只金が有れば宜い、有つても足らない〱と言つて貧乏顏をして居る、だから世界を擧けて日本は貧乏國であると考へてるのでありますまいか。

茲に一例を申上げますと、亞米利加は世界の富の大部分を集めて居る世界一番の金を有つた國である確か七拾何億弗といふことを承つて居りますが、日本に致しますと何百億といふものになりませう。斯の如く巨額の富を有つてゐる亞米利加は幸福であるべき筈であると考へられるが其の亞米利加は大金を抱いて何うして居るかと言へば世界中一番不景氣である、銀行はドン〱倒れ會社は閉鎖して居る、彼の有名なフオード會社でも今や煙突に蜘蛛の巣を張らなければならぬやうな狀態であり、唯一、二の工場が動いてゐるといふ狀態であります。一体何處に其の富が片寄つてゐるかと云へば其れは皆金庫の中に大事に仕舞つて居るのである、費ふと思つても費ふ仕事が無い、隨つて失業者が續出する、數十萬の失業者を出して世界一番の金持であると謂はれて居ります、其の結果先般のやうなストライキが盛に起る、先般の新聞にもありましたやうに林檎を積んだトラツクを覆へして失業群が其の林檎を喰つたといふ、金持の國である亞米利加に於てトラツクを覆へして林檎を喰つたといふ之が一体幸福でありませうか、何故さうであるかといふと之は簡單に考へれば雜作ない問題である、經濟論から觀れば一つ所に富を集めてしまつて其の金で仕事をしやうにも仕事がない、又相手國に購買力がなければ其の金は死んで仕舞ふ、一般民衆に富を與へなければ買へと言つても買へないのである、さういふ時に購へなければ購へるやうに資金をドシ〱貸出せばよい、或はもつと氣前よく捨てろと謂ひたいのである、さうする

と今度の防空演習で帽子を購ひたいと思ふ時に金があれば直ぐ購ふ事が出來る、帽子屋は工場に註文する、工場は生産が盛になる、すると共處に資金を運轉するといふことになる。斯ういふやうに金が絶へず動いて居るといふことになれば亞米利加のフォード會社もドン〳〵自動車が出來るのではないでせうかさう簡單には經濟問題は片付ける事は出來ますまいが何と言つても亞米利加は世界の富を一人で全部集めて置きながら一番不景氣であると謂はれてゐる、國家組織にしても今申しますやうに經濟通念から申しましても金を集めることが好いと考へる事も儲けさへすれば好いと考へることも今や現にさう云ふ行詰りを來たして居る、亦國際條約は何うでありませう、條約さへ結んで居れば世界の平和は保たれると考へて居るかも知れないが、第一戰爭をしない爲め不戰條約を結んで居る、條約を結んで戰爭をしないとならば何も戰はあるべき筈はない、戰をしないと言ひながら何故軍縮會議を開くのであるか、戰をしなければ軍縮會議をする必要はない、戰の無いところに軍縮會議のあるべき筈はない、戰をしないのに軍縮會議を開くと云ふのならば不戰條約の不信認である。考へて見れば何の事はない喧嘩をしないと言ひながら薙刀、鎗、鐵砲を持つて兜を冠つて武者行列をやつて居るやうなもので、刀を一本除つたら何うとか薙刀を止めたら何うとかといふ、さういふ軍縮會議は一体何を意味するか、それでも安心がなら

なければ何を行るか、今度は不侵略條約其の次は安全保障條約といふものが結ばれた。斯ういふ風になつて來ると今度は普通不戰條約の次に特別最高級不戰條約と云ふものが出來なければ納りがつかぬではないか幾らやつて居つても同じ事で遂には條約の常習犯となり、一人では足らないから十人保證人を作つて來いと言ふ、其の十人が前科何犯かでさう云ふ事に對しては堪能な人で平氣で共れを破る人許りであつたらどうする、タツタ一人で信用の出來る不戰條約ならば別に軍縮會議を開く必要はない筈であるそれでさへも尙不要である。一体國際聯盟は何の爲に出來たか、世界に平和を齎らさんが爲に出來たものでありませう、然るに東洋否世界の平和に對する根本の主張を異にした爲め日本は聯盟より離脱した日本は潰れても國際聯盟さへ立てば宜いといふやうに見へる、日本は潰れても我れ關せず焉といふ態度であつたやうに見へる、此の大事な國際聯盟ですら此通りであります、世界に平和を持ち來たらんとしたベルサイユ條約も根底は何うなつたか譯が解らない、もつと近い例は本日防空演習を行つて居りますが若し條約が正しいもので本當に皆んなが共れを守るならば一体毒瓦斯といふものは軍縮條約で使はないと世界が大きな判を押したのがツイ此間の事であります、然るに何處に行つても防毒面を被つて居る、其の防毒面の普及徹底を期して居る其最も大童になつて居るのがお隣の露西亞である、之に對して

抗議が出なければならぬ筈であるのにお互ひに憚る所なく防毒面を被つて居るといふのは何に原因するのであるかお互に協同して防毒面を止めやうといふことになつて宜い譯であるが、其處が以心傳心でお互に防空演習を行つて防毒面を被らなければならぬことになつて居る悲があるのであります。

斯樣な情勢が現に吾々の眼前に現はれて居るのでありますが之で一体世界の平和世界の永遠の幸福を求めやうとしたところで幾らやつたところで之は何等効果が無いのではないか、現今の狀態は世界悉くが非常な勢ひで向ふ見ずに鐵板にぶつゝかつて頭を血だらけにしてゐる有樣で其の後を一生懸命で追着いて矢張同じ樣に向ふの鐵板を押退けやうとしてゐるのが日本ではないでせうか、今や漸く之れに氣付たならば早く一歩退つてア、此處には何か缺陷がある、向ふには大きな鐵板があつて行道が塞つてゐる此處迄は一生懸命來たが此の道を行けば血を出すから此處で靜かに落着いて考へて自分の姿を見詰め、日本人は此の道を行つてはならない、日本人は此の道を行くのではなくして此の道を矢鱈に行つて苦んで居る人を救ひに行くのだ、其の爲斯うして來たのである。私と一緒に此方へ行きませうといふことで此處で思ひ返して相談しやうではないかといふのが一体今日の狀態ではないでせうか。此の二世紀、三世紀の間泰西文化に支配せられた所謂世界文化に漸く追着いた日本は今や過去の一切を俎上に上げて再檢討をして吾々の行くべき途を考ふべき事が偶々滿洲事變其他に據つて露骨に其れが表はれて來た、此の點を靜かに考へなければ遂に世界不安の鐵板に頭をぶつゝけるのではないか、此の點を吾々は能く考へて見なければならぬと思ひます。

理窟も研究すれば種々ありませうけれども靜かに考へて見ると歐羅巴の此の泰西文化の大なる欠點は餘りに自己本位であり、餘りに利己主義で己さへ好ければ他は何うでもよいといふことを眞理とし其れを通念として居る處にある、故に權利義務の問題が非常に喧しい、苟くも權利があれば尙義務がなければならぬ而して所謂物質主義に依つて其の長所を充分に發揮し能率は增進し、組織化され合理化されましたけれども同時に其欠點たる亦利己物質に對する執着といふものに禍ひせられた、一体世の中は相持ちで宇宙萬物悉く一人で活きて居るものはありませぬ、お互の利益幸福は各自持合で初めて宇宙は動いてゐる、大陽と月はお互の引力に依つて、其の持合に依つて支持廻轉してゐると學者は謂ふではありませぬか。

然らば今日の個人主義と物質主義に偏重して居るに對しまして、吾々は今少しく玆に犧牲的精神即ち己を捨てゝ衆生を活かす、物質主義に偏するに對して一簞の食一瓢の飲陋巷に在つて樂しみ其の裡にあ

りと先哲が謂つて居ります様に物質萬能の他面には九尺二間の中に在つても亦樂を求め得る底の心を以て天下を觀ながら山も自分の庭の山、川も自分の庭の中のものであると考へて樂しみを其處に求めて行くといふ精神文化を此處に注ぎ込んで萎靡墮落せんとするものに一抹の清涼劑と一抹の防腐劑を與へまして、泰西文化を淨化するに非ざれば何と言つても永遠の平和、永遠の幸福は來たらぬのではありますまいか、故に東洋文化、殊に犧牲的精神を唱へて居る精神文化をより廣く全世界に唱へる事が必要だ、一体東洋文化、日本文化は總べてを非常に廣く觀て居る

あさみどり澄みわたりたる大空の

廣きをおのが心ともがな

此の御製の如くに總べてのものを容れるべく其の心持に立つて此の日本文化を以つて西洋の物質文化個人主義を調和して行く、即ち東洋文化と西洋文化の調和であり物質精神兩文化の融合で、此の調劑を旨くやるところに自分の道が初めて生れるのではないかと斯様に私は考へるのであります。

然らば其れを誰がやり得るか、誰にお賴みするか、靜かに之を考へて見ますと歐米の諸國中東洋文化を咀嚼して國民精神の血肉となして居る國が何處にありませう、亞米利加と雖も遺憾ながら百五十年來未だ東洋文化に就ては恐らく幼稚園の域を脫しないでせう、英吉利は老帝國でありますが東洋文化に就ては未だ一年生の範圍を脫しない、以下佛蘭西、獨逸、伊太利、露西亞、孰れを見ましても東洋文化に對して充分發言し得るだけの國家としては非常な開きがあるのではないかと私は思ふのであります。斯の如く東洋文化に就ては世界の各國が何等の發言權がないとするならば飜つて東洋に於て西洋文化を充分に吸收した國が何處にあるか、支那、暹羅、印度、トルコ、ペルシヤ之等各國に比して西洋文化を日本位吸收し消化し了つた國はないのであります、さうすると世界を擧げて何れかの文化に偏してゐる。唯だ日本は總べての東洋文化を吸收し大いに其の眞價を握り其れに對して充分の批判を爲し得る點に於て何と言つても日本が第一であるといふ自信を致すのであります。

加ふるに日本は此七十年間に於て西洋文化を取入其の發達は今や世界の壘を摩して之を追祓かんとする有樣である。冷靜に西洋文化の長所を採り入れて其の短所をも充分に味はつて居るところの東洋民族は日本を措いては他に無いのである、世界に於て東洋文化を充分に批判し、西洋文化を充分に檢討し得るものは如何に世界廣しと雖も唯日本一つしか無いのであります。然らば東西兩文化の融合と物質精神兩文化の調和をして此行詰れる世界を平和にし幸福にする第一のコースをとり其れに對する道案内を與

へて行くものは日本を措いて世界に一つも無いのである。否が應でも日本が此立場を以つて起たなければ世界は救はれないのである。斯樣に日本が好むと好まざるとに拘はらず否でも應でも此大任を自ら背負つて立つて世界救濟の爲め一肌脫がなければ到底永遠の平和は得られないといふことを斷じ得るのであります、斯くの如く時局を考へ世界の大勢を考へて行きますと何よりも日本の本當の使命と言ふ一點に全力を注いで其處に精神を集中しなければ軈ては歐羅巴の跡を追ふものであると考へなければならぬと思ひます、故に茲に天が日本をして世界救濟の大使命を與へ、亦日本が其れを擔任し得るだけの第一素質を有つて居るといふことを自覺して大所高所に立つて世界を批判し世界の救濟主、人類救濟の大光明として　神祖天照皇大神の尊き御訓と日本建國の大精神と歷史を通じて流るゝ一貫せる日本精神に立還つて茲に新たなる世界の幸福と平和を造り出す我等の巨大な姿を、世界をして仰がしめなければならぬ立場に立つて居るのであります。

斯くの如き大理想と大抱負と日本の世界的天職を自覺して此時局を考へます時に吾々日本人は最も重要な位置に立つてゐるといふことを誠に痛切に感ずるのであります。而して此の世界的天職實現の第一歩としては日本は至醇清澄の理念を以て虛心坦懷に過去の一切を再檢討し先づ日本自體を此の理想に合致するやうに吾々は考へ直してそうして世界をして日本を見よと言はしめなければならぬのであります其れには何よりも吾々が眞の日本人に立還つて日本の古へからの訓へを遵奉して所謂皇道の宣布に奮闘して行くより他に途は無いのであります。

然らば日本の道は何ういふ事であるか、之は恐らく日本の何人でも申述べ得る事であつて積つては千萬卷の書物にもなり得ることでありませう、併し乍ら日本の訓へは古へからさう物を喧しく考へる必要はないと思ひます、日本の國其のもの、國體其のものを素直に眺めて日本の道其のものを素直に考へて國體の根源を眞直ぐに拜察する事に依つて充分であると思ひます。茲に私は新しい議論ではありませぬが、日本人としての考へ方、日本の道といふものに就て敢えて申上げるのであります。第一に國の肇め即ち神代の御代に遡つて吾々の理想を茲に求め、其處に吾々の信念を求めなければなりませぬ。神代史は動もすれば荒唐無稽のものゝやうに批評する人がありますがそれは大なる誤りである、單に神代史を文字のみに、事實のみに就て考へますならば或は科學的に何うであるといふやうな議論も出ませうが、心で讀んで御覽なさい、佛教を信仰して本當の佛になる爲には千萬卷のお經を文字通りに讀んでは何時迄經つても成れるものではないと思ひます、其れを心で讀めば唯南無阿彌陀佛だけで一路佛陀に近づき

得るのであります、佛になり得るであります。神代史を心で拜讀すれば昔よりの言傳へ聽傳へに依つて日本人の考へ、日本の皇室の仰せられて居ることが自然に理想化されて神代史の中に明かに拜察出來ると思ひます。斯くして先づ神代史を心で拜察し日本の國の一番初めの創造に立還つて吾々の心を其處に置けば宜しい。其れ以上之を科學的に何とか彼とか謂つても人間の頭では遺憾ながら宇宙の總べての理窟を解釋し得られないのであつて其の解釋し得られない神秘な處に何物も動かし得ない或る尊いものを感ずるのであります。

昨日もお話したのでありますが、黄昏から夜が陰々と暮れて行き丑滿の時刻になつて新らしい墓地に行つてコツ／＼と歩いて居ると梟がボツボと啼いてゴーンと鐘でも響きます、其處へ雨がボツ／＼と降つて來て腥い風がフツと吹いて提灯が口を開いてパク／＼として居る、其處へ行つてお互に噫愉快だなあ此處で一つ宴會でも開かうといふやうな者は一体百人の中何人ありますか、家に在つて子供を相手して居るやうな氣持になれませうか、提灯がパク／＼やるのを見ると何だか生きたものが動いて來るやうな感じがする、其は唯單に頭にそう感じて來るだけで提灯そのものは何等變化はないのでありますが、人間の頭位ひ確實なやうで不確實なものはないのであります、これなども非常な錯覺に囚はれて居るのではないでせうか、提灯が動いて居るのは自然に風の爲めでもありませう其を怖いと思はば怖い、ところが何うも金儲けが無い、其處で其提灯を張り替へて賣れば壹圓の金になる、やれ嬉しやと思つて持つて歸る、一人は怖はいと恐れ、一人は生活の親だと考へる、人間の有つ心次第で或者は愉快にもなり或者は恐しくも見へるといふことが考へられるのではないでせうか。

吾々が神代史を心で拜讀致します時、先づ心に浮ぶ事は諾冊二尊の我國肇の事でありますそれから諸々の神樣が日本修理國成の力となつて居ると言ふ事です。此の混沌たる國を固めて理想の國にする、平和の國にするのだといふ思召でありまして此の混沌の中から造り固め成す事に依つて吾々は幸福であり平和である、其の混沌たる中から造り固め成すには其處には必らず奮鬪努力がなければならぬ汗みどろになつて此漂へる國を混沌の中から固め成すといふことに向つて奮鬪努力しなければならぬといふことが吾々の訓へである、其れが吾々の有つべき理想であると仰せられました、さうしなければ日本人たる事を得ない。斯う拜察を致して其處に何の不合理がありますか或は人に依つて種々にお考へになり御想像になることでありませうが少くも私は以上の如く信ずるのであります。然らば我々の理想であり使命である此の混沌たる裡から理想の國を造り上げ遂に總べてを神のやうな國にして行かうとするには自然試

練も經驗も嘗め經無くてはならぬのである、昨日も申上げたのでありますが左甚五郎が自分の理想の猫として作らうと言ふのは鼠が逃げ出して行く樣な猫を彫刻する、其れが左甚五郎の考へであつた、其れが出來上つたならばどうするか、其れを高價に賣つて愉快に一生を暮すといふ根性では鼠が逃げ出す樣な躍如たる猫は作れない。甚五郎は只だ鼠が寄り付かぬ樣な猫をといふ一つの使命に精魂を集中して作り上げ後は所謂一簞の食、一瓢の飲陋巷に在つて樂しみ其の裡にありといふ境地に立つて居つた、其處に左甚五郎自らも幸福であり、日本人の或る偉大さを世界に示す或る大切なものがある、即ち漂へる國を混沌の裡から理想の國に固め成して行く、混沌たる裡から理想鄉を造り上げるには左甚五郎が猫を作り上げた如くするのが吾々日本人の使命ではないかといふことを、此の漂へる國を固め成すといふ訓への中から拜察するのであります。（拍手）『艱難汝を玉にす』と申します、日本人が偉くなる所以は其の艱難が吾々の理想であるからであります。

扨て又私は防空演習に就て常に考へるのでありますが、本來日本は最も地震の多い國であります。地震は吾々の親類であり吾々の仲間である、日本人は地震を考へずして活きられないのであります、吾々は今年に入つても隨分大小の地震に遭ふてゐる、地震を怖がつては日本に住めない、其れから風も隨分日本では猛烈なのが吹く風速二十米突三十米突時には其れ以上のが吹く、風に地震に津浪と云ふ實に慌しい日本である、神代史の日本創造の昔を思ふと其の當時の人々も斯うした天災地變に遭つて之を自分の仲間と觀じて奮闘努力された事と思ひます。其れは兎に角として地震から生れて來た日本人、地震に鍛錬せられた日本人が何で空襲を怖れるのであるか私には解りません。空襲とは空中の地震である、空襲があつたならば空の地震が來た、人工地震が來たと思へば宜しいお出でなさい、地震で鍛へた日本人だ何度でも來いと平氣で居れば宜しいです、戰をするからには命は素より捧げて居る、時には毒瓦斯も爆彈も落しませう。多少の損害もありませう其れは覺悟して置いて、爆彈が落ちたら防護團の諸君は爆彈の下に行つてヤレ爆彈が來たか懐しやと言つて集るのです。逃げては不可ない、さうして何人死んだか計算をして見る、さうすると自分の豫定よりも損害が少ない、さうしたら相手國に無線でも打つて實は今日は百人の死傷、百軒の家が燒かれる覺悟であつたが下手なことには彈が皆外れた。其れに防護設備が好かつた爲めに三十人の怪我人と三十軒の家しか燒けなかつた、未だ七十人と七十軒の剩りがある早くもう一度來いと言つて御覽なさい二回、三回何回やつても日本人は平氣だ日本人は偉いこんな國民とは戰爭は出來ないと感ずるに違ひない。一体空襲だ爆彈だと言ふがそう容易に都市なり人間なりを全

滅し得るものではない。例へば福岡市に就て考へても假りに一回の損害を百人と考へても敵飛行機が一日に何回も來る譯ではないだから福岡だけに付ても何十年もかゝるでしやう其の間に子供が産れる孫が出來る結局何時まで經つても福岡は萬々歳と言ふ譯である。さう云ふ氣持を有つて假りに空襲を迎へて御覧なさい、敵の方ではこんな國と戰爭をしても駄目だ早く斯ういふ國とは永遠の平和を結ばなければならぬといふ事になつて譲るだけ讓つて媾和と來る。何にしても平氣で空襲を迎へる位の氣持が大切だ、此の肚が決つて其處に機關銃なり大砲なり聽音機なり飛行機なりを作ればそれこそ鬼に鐵棒で向ふの方が參つて仕舞ふ事は請合であります。

之が所謂戰はずして勝つと云ふ戰の極位です。要するに落付いて協力して相互扶助の精神を發揮する事が大切です、彼の關東大震災の時の有様はどうでした、餘りの不意の出來事に人心が轉倒した關係もありませうが自分だけが自分さへよければ人は何うでもよいと言つた鹽梅で自分の物だけを舁ぎ出して火事を消す事を忘れた結果殆んど東京市全部が燒けてしまつたではありませんか。其の上に色んな流言蜚語に脅へて錯覺に陷つて出さなくてすむ幾多の犧牲すら出したのです。斯う云ふ歐羅巴流の個人主義、利己主義と慌て方とは私共の大に反省をしなければならぬ點であります。何時も根本の觀念、根本の思想といふものを確りと自分の肚に極めて道の上に立つて、自分が犧牲になつても此の福岡市の全体の人を安全にしたいと言ふ考へで行けば悉くが幸福になるのであつて防空演習に於て第一に鍛錬すべき事は其の點であると思ふ。そうして日本の訓へである奮闘努力をしなければならぬ、奮闘努力は日本の訓へである。恭しく惟んみまするに　神祖天照皇大神は鏡の如く光明に玉の如く仁愛に劍の如き武勇もて我國民を所知食せと仰せられて天孫瓊瓊杵尊に神勅を賜はり三種の神器をお授けになつたのであります。此の御神勅の御言葉と三種の神器に表徴せられた御精神こそ日本の訓への大本源でありまして神武天皇以來二千六百年を通じ歷代の御皇室は一貫して此の御訓を御擴充遊ばされまして皇德常に四海に洽く民草は以て平和に幸福に在るやうにと大御心を碎かせ給ふたのであります。玆に日本の國體が嚴として輝き日本の氣持も明かであります、が其の御思召を吾々が正しく體して行くところに國民としての吾々の務めがあります、之が即ち基礎で吾々の執るべき道の根源であると拜察するのであります、而して此の皇室の御示し給ふ道を宇宙に洽かしむることが日本の使命であると拜察せられるのであります。

更に明治維新の王政復古の際に明治天皇の下し給はりました御詔勅の中に『億兆一人たりと雖も其の處を得ざれば咸な朕の罪なり』と仰せられて居ります、誠に畏れ多い御言葉であります。國民の總てが

幸福でなくてはならぬ、一人でも其の處を得ない者があれば朕の罪であるぞと仰せられました、誠に一天萬乘の尊き　陛下には國民の安危を一身に擔はせられてゐるのであります、一人でも其の處を得ざれば咸な朕の罪ぞと全責任をお負ひ遊ばされて居ります、何と忝けなく畏れ多き御思召を拜するのでありませうか。

日本の國民が等しく皇室を仰ぎ奉つて忠誠をつくしてこそ幸福であると言ふ事は此の一事を拜察致しましても洵に明瞭であると存じます、尙五ケ條の御誓文の中に『官武一途庶民ニ至ル迄各其志ヲ遂ケ人心ヲシテ倦マサラシメン事ヲ要ス』と仰せられてゐるのであります。九千萬赤子が貧富貴賤の階級の如何を論ぜず萬民をして悉く其の志を遂げしめなければならぬと仰せられて居るのであります、更に『萬機公論ニ決スヘシ』と仰せられて居ります、一人たりとも其の處を得ざれば朕の罪と仰せられ『官武一途庶民ニ至ル迄各其志ヲ遂ケ人心ヲシテ倦マサラシメン事ヲ要ス』と仰せられて居ます、之れ以上の尊い道之れ以上の貴い國が世界萬邦何處にありませうか（拍手）何を苦しんで我が祖國、ソヴイエート露西亞を護れなど〻假りにも口に出すのであるか其の處を得、其の志を得たならば之れ以上の幸福が何處に在るであらうか其れが我國の道である、之れを皇道と申して皇室の御道、陛下の御道即ち日本の道であります。然るに斯くの如く日本の道が嚴として明であるに拘らず其の處を得ず其の志を遂げて居りませぬものがありますが故に咸な朕の罪なりと仰せられまして畏くも宸襟を惱し奉るのであります、其れは何人の罪でありませうか、申すまでもなく皇室は吾々臣民に對して絕へず皇祖皇宗の御遺訓をお示しになつてゐます、そうして敎育勅語には『咸其德ヲ一ニセヨ』とお示しになつて君民其の德を一にせよと仰せられて居ます、其の外御詔勅には必らず『皇猷ヲ扶翼セヨ』『皇運ヲ扶翼セヨ』との御言葉を常に御示しになつて居ります。考へまするに此の崇高極りなき日本道は君臣咸其の德を一にして居る、別言すれば君臣一體であり君臣一如であります。從つて國民は此の道を扶翼し奉つて皇室の此の御道が明かに行はれるやうに努めよ、即ち其の處を得其の志を得せしむるやうにお前達は克く力を戮せて朕を翼けよと仰せられて居ります。吾々臣民として此の　陛下の御道をお翼け申上げるに當つて少しでも此の御道が曇る事があつてはならないのであります、若し國民の中で其の處を得ず、志を遂げ得ないものがあつて宸襟を惱し奉る樣な事があつたならば其れは皇猷を扶翼し奉つるに當つて吾々國民の努力が足りなかつた其の德を一にする事が出來なかつた誠に申譯がないと深く其の罪を反省し自責して恐懼する處がなからねばなりませぬ。そうして一度び顧みて皇運を扶翼し奉る事に即ち日本道を宣明する事に努力が

足りなかつたと自覺したならば其の上は不退轉の勇を鼓して一人たりとも志を得ないものが居ない様に臣節を完ふする事に渾身の努力を拂はねばならぬと思ふのであります。日本道と申すのは皇室の御立場から申上ぐれば皇道であり臣民として申しますれば臣道であります、肇國以來其の揆を一に致して居ります。

從つて今日の時局に處しても吾々國民は果して難關打開の奮鬪努力に於て申し分がないかどうか、皇運を扶翼する事に全力を盡して居るかどうかを反省する事が最も重要であつて、此の反省があつて始めて日本道を世界に宣布すると言ふ大抱負も實現し得るのであります。由來日本道は日本固有の文化と精神を基礎として支那文化、印度文化、泰西文化を取入れて愈々廣大無邊のものとなつたのでありまして日本こそ東西の文化を融合し日本道の上に立つて新なる世界文化を確立し列國に向つて堂々と訓へて行くべき責任と使命とを有するもので日本が立つて世界をして日本道に歸依せしめない限り世界には斷じて永遠の平和と幸福とは來ないと思ふのであります。今こそ敢然として日本が世界に向つて此の大道を進むべき秋であります、吾々は斯く論じ來りまして吾々日本人には其の實力に於て、能力に於て充分に之を成し遂げ得る事を確信するものであります。動もすれば一部の間には今尙歐米の文物に眩惑して自ら卑屈になつて居るものも絶無ではありませんが、併し靜かに考へて日本人の今迄やつて來た事や日本の歷史を觀ましても誠に世界無二の偉大なる素質を有して總べてのものを消化し總べてのものを旨く調和して常に新なる創造へ新なる世界へと進化して居るので私は必ず成し遂げ得る又成し遂げねばならぬと思ふので御座います。

思ふに日本人程消化力のある國民は他にはないでありませう。御承知の如く日本は支那の文字を其儘入れて今日も尙それを使つてゐます。併しその漢字から假名文字を作り上げ平假名も作り上げた。平假名は言ふまでもなく弘法大師の『色は匂へと散りぬるを我か世誰そ常ならむ有爲の奥山けふ越えて淺記夢見しゑひもせす』のいろは歌でありまして此の平假名がお互の間にどんなに役立つたか日本文化の發達の上に功献したかは多言する必要がありませぬ、所が更に母韻と子韻との言語を整頓したいといふので『アイウエオ』を作つたのである、さうして多年の經驗から平假名は非常に眼を刺戟しないでよいといふので讀み物には悉く平假名を用ひて居る只だタイプライターの如き能率に關係のあるものは皆片假名を用ひて居るが、如何に難しい漢字でも片假名を振つて置けば誰れにでも讀める、斯の如く文字を適當に創造し按排したところに日本人の偉大さがあるのではありますまいか、殊に電報が行はれるやうに

なつてから假名が非常に役に立つて來たのである、反對に漢字の本家本元の支那に於ては電報を打つのに漢字では困り切つて遂々暗號電報のやうなものに致しましてやつて居りましたが最近漸く假名を作つたといふ事であります、其の點を考へて見ても支那の文化が日本へ這入つて來まして今から千年以上も前に今日の電報の事を考へて日本人はチヤンと假名を作つて居るのであります。

さうすると支那人よりも日本人の方が物事を識り、先きを觀る事に於て千年だけ先きが早く觀へた事になる譯であります。冗談のやうな詰らない例でありますが、日本人が如何に偉大であり外來文化を消化する力があるかといふことを申上げたのであります。然らば現今は何うであるか、と言ふと外國語がドン／＼這入つて來ると早速外國語を日本化して使つて居る。例へば『ナイフ。ネクタイ、コツプ、インク、マイクロフオン、ラヂオ、等擧げて行けば限りはありませぬ。『トンカツ』などは特に巧い使ひ方だと思ふ。其れから九州方面では和蘭、西班牙、ポルトガルの言葉を使つてるのが少くない、ドンタク、牛ドン、ギヤアマン、オランダ、ボウブラ等澤山にある。斯の如く日本人は何でも他所のものを消化し得る能力があります。

一体日本人が此の通り消化力があると言ふ事は物に屈托しない寛宏な天分を持つて居るからだと思はれる

『あさみどり澄みわたりたる大空の廣きをおのが心ともがな』と御製にもあります通り何でも受けて最も正しい道に使つて行くと言ふ日本人の偉大さがあつて總べてのものを消化してゆく事と思はれます元來日本人は感が素晴しくよい、例へば漁師が天氣を判斷するに測候所より確かと言ふ、豆粒に眼で見へないやうな細かい字を書くのも感でやつて居るといふことです。天下萬物を悉く感で觀て行くのが日本人の特性である、此の位ひ便利で好いものはない、現に技術上の事でも日本人でなければ出來ない事が澤山現れて居ります、理窟以外に於て感の問題になりますと日本人の畠である、が此の感が人間の心にどれだけ潤ひをつけるか、どんなに人間味を豊にするか全く言葉では説明が出來ないのです。相手の事情を察する場合なども理屈や論理でゆくよりは感でゆく方が餘程温みがある。例へばチツプの問題の如き、歐米では大抵は一割五分に決つて宿屋もお客も當然と心得て居る。宿の好し悪しボーイの親切不親切などは一切御構ひなしだ所が日本の茶代は部屋の具合建築の程度、宿屋の經營狀態、女中の親切かどうかと言ふ事を種々に考へて言はゞこちらの感で判斷してそれ相應に宿屋にも女中にも其の心を遂げしめて遣りたい、宿屋の經營が成立つやうに其の志を遂げしめて遣らなければならぬと頭を惱します、

そうして分に應じて茶代をやる。頭を惱ましたゞけに其處に一脈の春風が通ふ人情の溫みが流れる。茲に矢張り東西の人情、東西文化の相違が窺はるゝのであつて西洋のチップが冷い權利義務的であるに反し日本の茶代には人間の心の香が漂ふ。日本人の美くしさ何事も溫く手を差しのべて行かうと言ふ所謂日本道が隨時に表はれる之は實に日本人のみの長所である、それに拘らず一体日本人は餘りに自分の事を卑下し過ぎはしないかと思ふ。オリンピツクの競技の得點なんかにも色々惱んで居るやうであるが、さう氣にせんでも宜しいと思ふ。顏の色が黃色で惡ければ小判は何うする、小判は黃色い方が良いので白い方が惡いに決つてるではないか、吾々は金の價値を有つて居る人類であると考へて居れば宜いではないか亦足が短かく脊が低くてオリンピツクの得點が惡いと惧れるけれども、それはオリンピツクの競技其のものが歐羅巴人に都合のよい競技許りを竝べて居るからではないか、日本人に郡合よくすれば日本人は何時でも勝つものです。要するに日本としての長所がある、彼の長を採り日本の短を補つて行けばそれで宜いのである。一体何でも日本が劣等のやうに卑屈に考へて居るが、日本人には前述の如く世界人の何れもが持たない無比の長所を數々に持つて居るのであります。お互ひに日本人の本質を充分に考へて見なければならぬと思ひます。

例へば考へて御覽なさい。日本人の廣々とした寬宏な心を―今の今まで血を流し骨を碎いて戰つて居た惡むべき敵のその屍を見て戰ひが濟むや直に其の附近の野薔薇の一輪を手向けまして默禱して去るのは日本兵士の通有性であります。蒙古襲來の時敵味方の供養塔を建てたのは一体何人でありませう、

さういふ古い昔に遡らなくとも近々上海、滿洲事變に於ても敵方の供養塔が建てられて居ります。外國人に對しても何等の差別なく之を懇ろにお祀りして居るのは日本人であります。熊本の加藤神社の御神體に一つの朝鮮人――當時の外國人であります朝鮮人と神樣の一體として祀られ、今尙加藤神社の祭例には三つの御輿と共に御幸をされるのであります。招魂社には外國の船長も合祀せられて居ります。今回の事件に於て長城線の戰鬪に戰死した我軍の將兵の戰歿忠魂碑が我軍によりて建られました當時に同じ我軍の手に依りまして中華民國の將兵戰歿の碑も建てられました、先般其の招魂祭が行はれる際に中華民國の軍人が之に參列致しまして其の中華民國の忠魂碑を見まして誰れが建てたのであるかと尋ねた、それが日本軍の手に依つて同時に建られたといふ事を聽いた時に此の事を戰爭の前に承知して居つたならば吾々は日本軍に對して抵抗しなかつたであらうと告白をして居ります。人の脊中に着いて居る毛虫を默つて拂つて一言も言はずに去るのが日本の紳士の行ふ事でありまして、人の惡は摘發しない、

人の善は何處までも之を賞揚する、此れが日本精神の極致であり之が日本の本質であります。誰が日本を好戰國、侵略國、殘虐なる國民といふのでありますか、世界に向つて敢へて問ふ、敵と味方との供養塔を建てる國が何處にあるか、お互に異つた國民を神様に崇める國が孰れにあるか、只だ日本人あるのみであります。此の偉大なる日本人こそ今日世界を救ふべきものであり、東西文化を融合すべきものであつて素質に於ても、根本の思想に於ても、亦國の成立ちに於ても之を爲すものは日本人、日本國民、皇室を戴いて其の下に擧國一體となるべき日本國にあるといふことを深く銘記しなければならぬと思ひます。

時間が過ぎましたので簡略に申しますが日本の諺に『燒け太り』といふのがあります、即ち損をしたよりもより多くの倖せを得るといふ事であります。函館に火災がありました、然るに各方面の同情に依つて、お互同胞の共存共助の道に據つて燒太りをしたと謂はれて居ります、と言ふのは單に一個人の燒け太りではない函館全体を通じての燒け太りであります。關東大震災後の立派な復興も擧國一體同胞の共助の力である、之等は孰れも燒け太りといふ諺を其の儘如實に表はしたものと思ひます。其の人の難を救ふ犧牲と同情の裕かな心、敵味方の供養塔を建てると同じやうに我れを忘れて行くところ其處には何も理窟がある譯ではない、さうしなければ承知が出來ない吾々の心持であるのである、それが尊いのである。恐らくは先般の關西の風水害も間も無く之は燒け太りでなくして、風太りになるのではないかと思ふ。亦吾々としても必ず關西地方を風太りにしなければ吾々の本當の裕かな潤ひのある氣持とは謂へないと思ふのであります。私は必らずさうなり得るものと確信致します。此の氣持で此の時局に處する道をお考へ願ひたいのである、只だ私が不滿に思ふ事は此の樣に裕かな思ひ遣り深い日本に對して何故に海軍の比率を六割にするかと言ふ事です、若し日本が假にも六割に甘んずるやうでは遂には一割でも二割でも三割でも宜いといふ事になるかも知れない。苟くも島の日本、海の日本は世界を指導するといふだけの氣魄を有つ必要があると思ひます。どうぞ以上の事をお考へ下さいまして、只今の時局は將に世界を救ふべき時局でありそれを意思に行爲に現はすべき重要な時局である。滿洲事變が小康を得た後の新しい吾々の行くべき道程、吾々の演ずべき舞臺、吾々の活くべき道は此の東西文化を融合して日本の道を表はして行く事であります。玆に自ら世界は救はるゝと思ひます、而して其の道に就かしむ塲合にも各々其の處を得、志を得せしむるに就ても無理があつてはならない、自然に無理のない各自の處と各自の志といふものを考へなければならぬ。私は空高く聳え、苔は其の下蔭にて榮えて居る、魚は水

中に在つて泳ぎ、鳥は空高く飛んで居る皆な各その處を得、志を遂げて居るのである。若し風に當るだらうと言つて松を溫室に入れたり苔は日蔭で困るだらうと太陽に曝したならば松も苔も迷惑です。魚は寒からうと言つて水の中から引摺り出したら魚は不幸でありませう。鳥も危なからうと言つて羽を除つたら迷惑でありませう。之こそ處を得たのではないのであります。

どうぞ斯樣にお考へ下さいまして日本一國が一單位となつて世界の信用を高め世界人をして仰がしむべく日本の內部を整頓して世界をして日本は成るほど偉いと思ふやうに致すことが必要である。お互に瑕を探して泥試合を致す樣では世界は日本を侮るのである。親は子の爲に子は親の爲に互にかばひ合つて外に向つて內輪の事を暴露することを愼んで世界をして本當の日本の價値を識らしめるやうに協力する必要があるのであります。只だ斯ういふ道を以つて進んで行きましても、世界が必ずしもそれを容れるかは疑問であります。斯ういふ話があります。或る人が山の中で追剝に出合つた。親の死目に會ひに行くので金も無ければ着物も無い、何うか親の死目に會はせて下さいといつたらそれはお氣毒だ金も上げませうと着物も上げませうといつて追剝が自分の一枚の着物を脫いで遣つた。其後へ狼が出て來ました此の狼に同じ事をいふて賴みましたが耳をかす所か何の遠慮もなく結構な物だといつて喰つて仕舞つたといふ事でありますが、私共が日本の道に立つて行く上には相手が狼であるか何うか狼に對しては狼に對するだけの覺悟を以て行きたい。吾々が正しき道を辿り世界平和を求めんとする時に行手に狼が現はれて日本の道に叛くとすれば血を見る事は嫌でありますけれども止むを得ず狼を殺して一殺多生――一つの惡いものを殺して千萬人の正しきものを生かすだけの覺悟はあつて欲しい。血を見ることは好まないけれども正義の爲には一殺多生の道も佛の道として行かなければ到底吾々の使命を果す事が出來ないと思ふのであります。

現下の情勢に於て以上の日本の大使命大任を果す爲には此の寛猛宜しきに處す丈けの心得がなくてはならぬと思ひます。

非常に時間が經ちましたからどうぞ以上述べた時局に對する其の根源の問題をお考へ下さいまして、利害に惑はず正しき日本道の上に東西文化を融合して世界の平和を求める事に一層の緊張努力を茲に切望致しまして私の講演を了りたいと思います。（拍手）

昭和十年五月十日印刷
昭和十年五月二十七日發行

福岡縣廳社寺兵事課內
發行所　福岡縣國防會

福岡市中市小路四一
印刷者　高山政見

福岡市中市小路四一
印刷所　高山印刷所
電話七三七三番

代書寫

7
1